

男女共同参画に関する市民意識調査  
—概要版—

平成 28 年 9 月  
摂津市

# 男女共同参画に関する市民意識調査概要版

## 【調査目的】

本市では、男女が職場や家庭、地域などのあらゆる場で責任を共に担い、共に方針決定に参画し、生き生きと輝いて暮らすことができる社会形成のための基本方針をまとめた「第3期摂津市男女共同参画計画～ウィズプラン～」を平成24年(2012年)4月に策定しました。

この「第3期摂津市男女共同参画計画～ウィズプラン～」の計画期間の中間年にあたる平成28年度には計画の見直しを予定していることから、計画改定の基礎資料とするとともに、今後の施策を検討する上での参考とすることを目的として実施したものです。

## 【実施概要】

調査対象	: 摂津市に居住する20歳以上の市民
標本抽出方法	: 住民基本台帳から無作為抽出
標本数	: 2,000人
調査方法	: 郵送配布、郵送回収
調査期間	: 平成27年(2015年)9月
有効回収数	: 896件(44.8%)
性別	: 女性58.8% 男性41.1%

## 目次

男女平等に関する意識について	2
職場における男女平等意識について	5
育児休業について	6
介護について	9
出産や子育て、介護などをしながら働き続けるために	11
男女の人権について	13
防災について	19
男女共同参画社会について	23

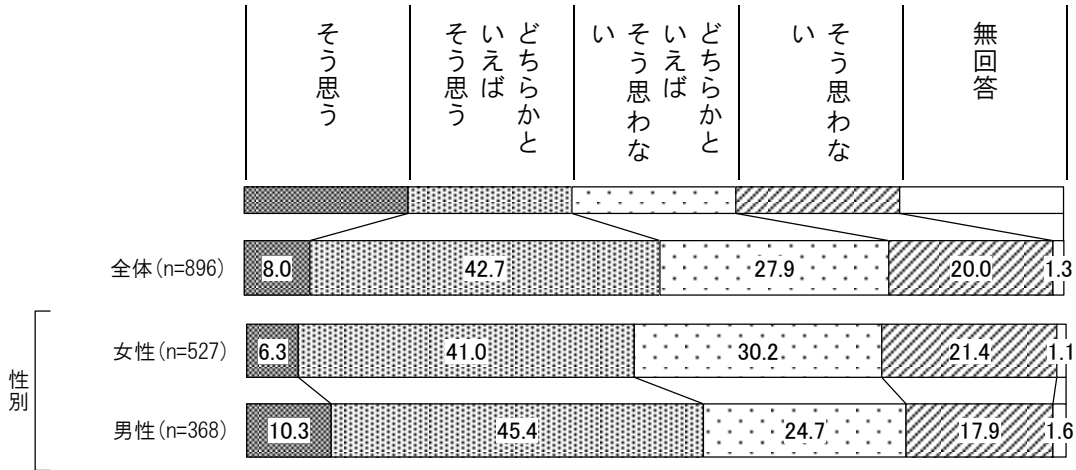
# 調査結果

## 男女平等に関する意識について

### ○「男は仕事、女は家庭」に『賛成』『反対』ほぼ同数

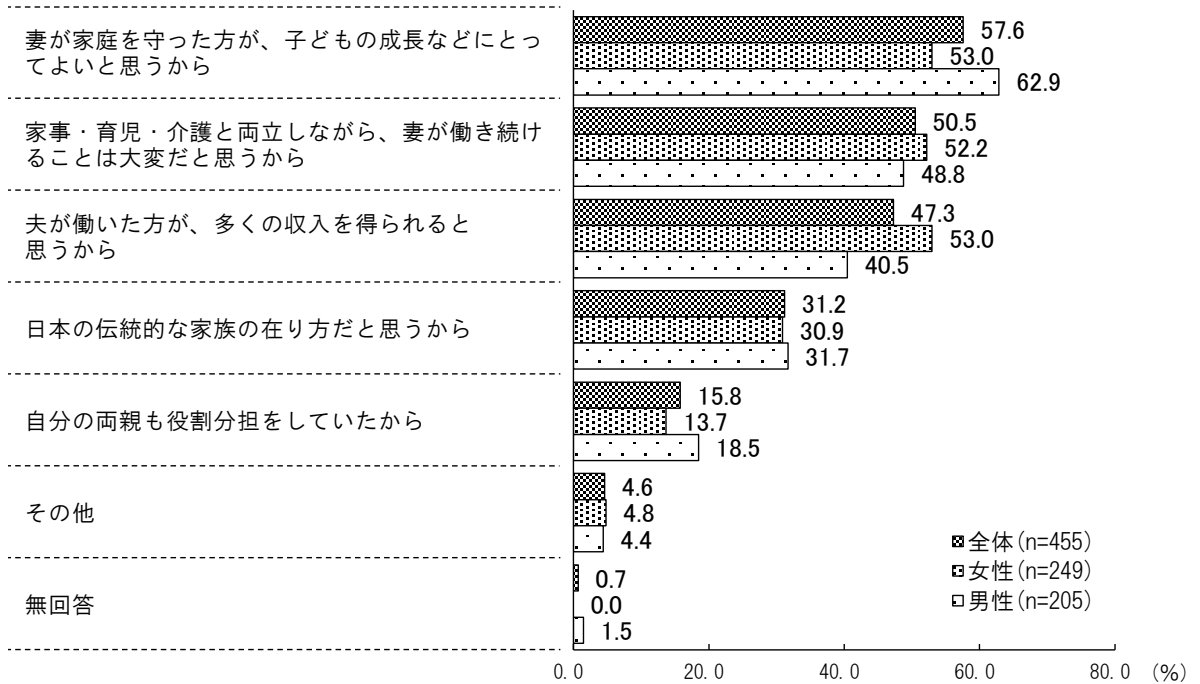
「男は仕事、女は家庭」という考え方（性別役割分担意識）については、『賛成』50.7%、  
『反対』47.9%

女性では、『賛成』よりも『反対』が多いが、男性では、『賛成』の方が『反対』よりも多  
い



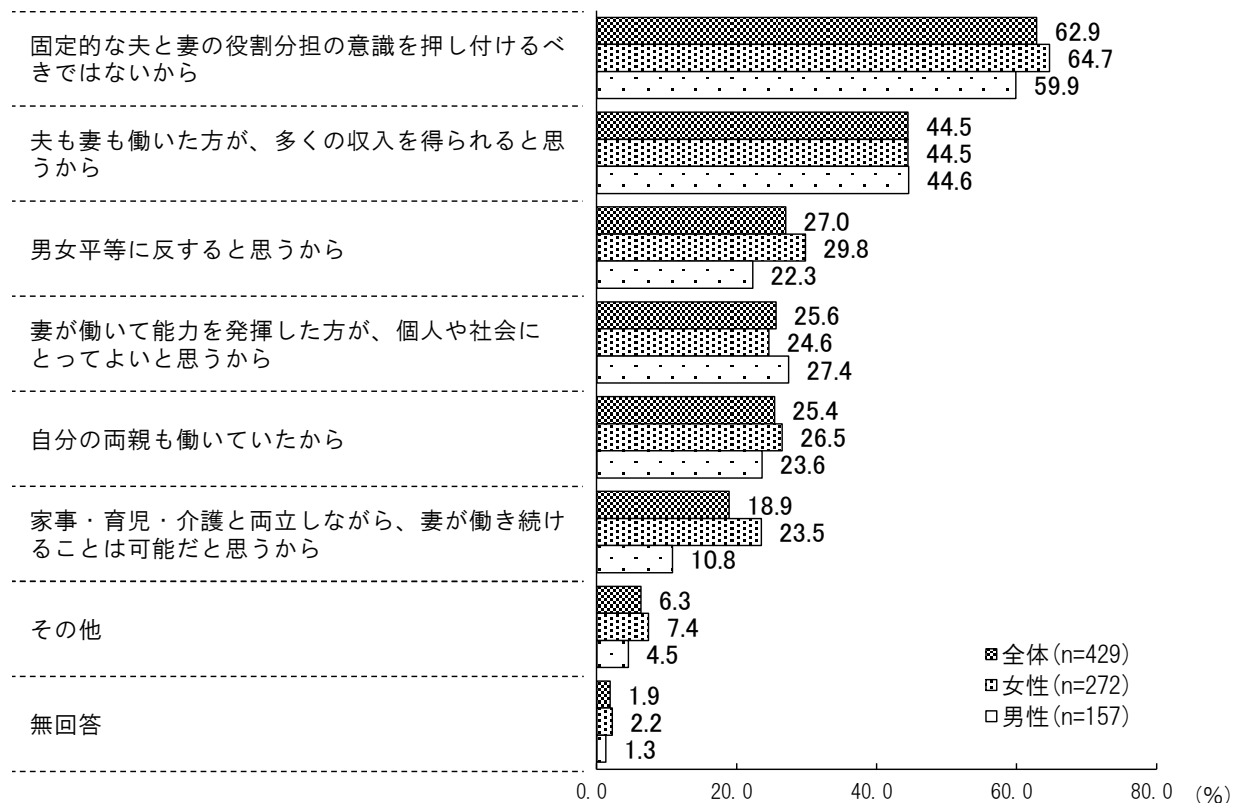
### ○同意する理由

「妻が家庭を守った方が子どもの成長にとってよいから」が最も多い



## ○同意しない理由

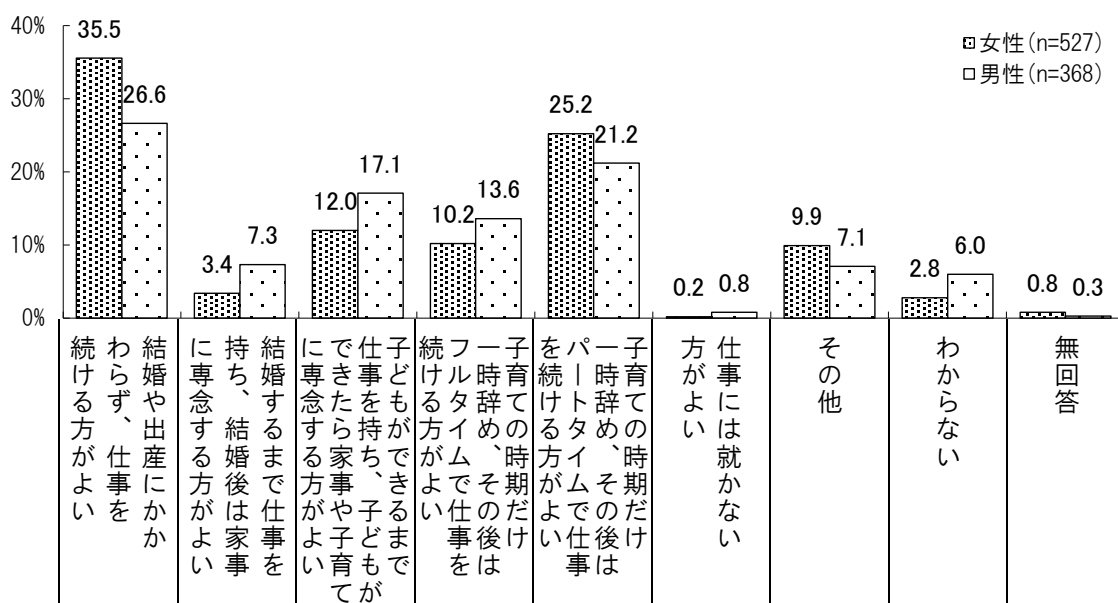
「固定的な夫と妻の役割分担意識を押し付けるべきではないから」が最も多い



## 働き方について

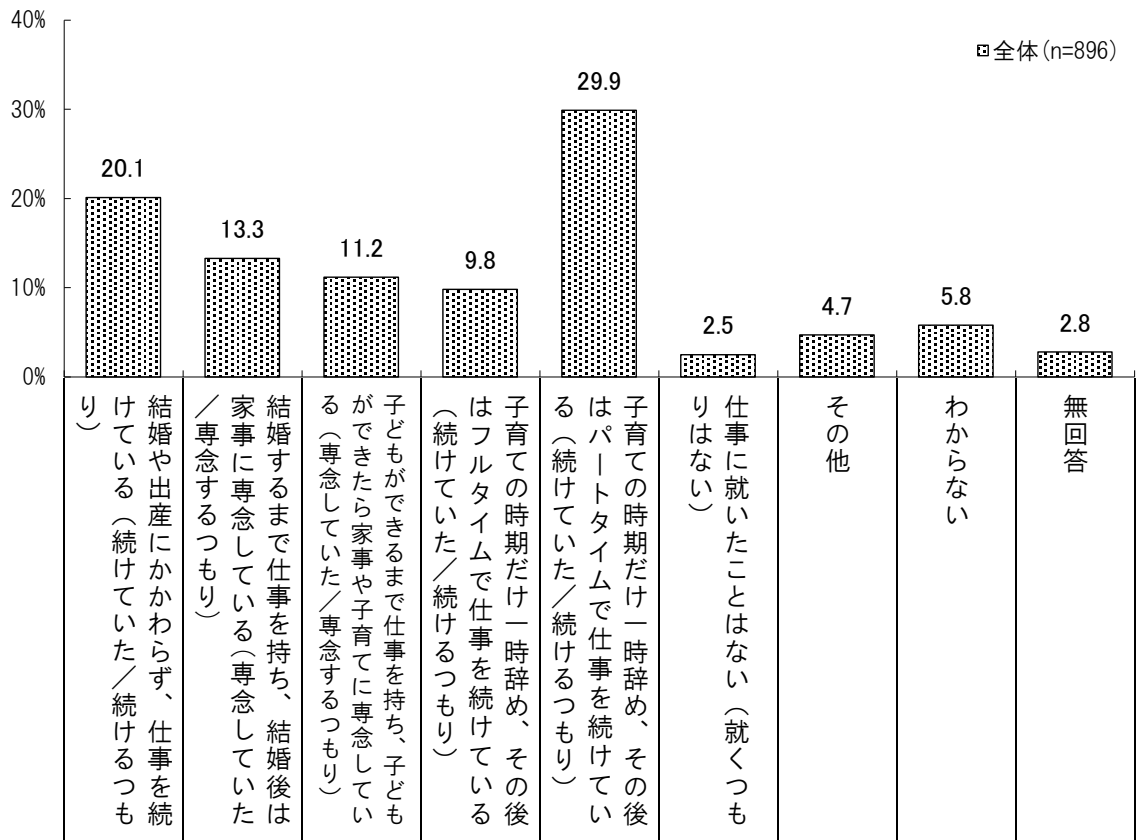
### ○女性が職業を持つことについて

男女とも「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が最も多い



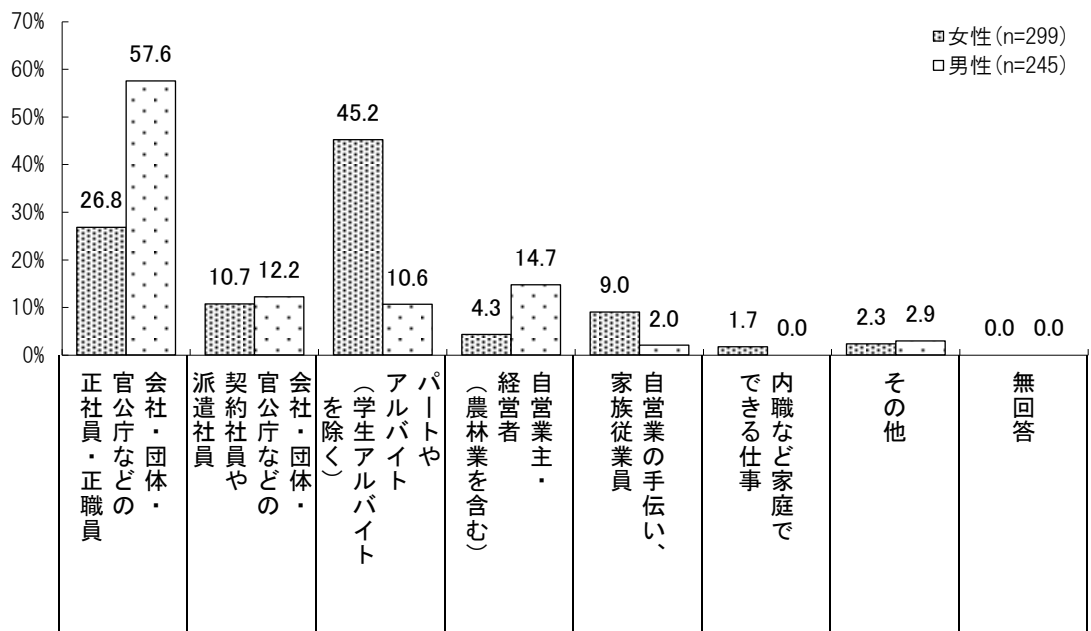
## ○女性の実際の働き方

「子育ての時期だけ一時辞め、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」が最も多い



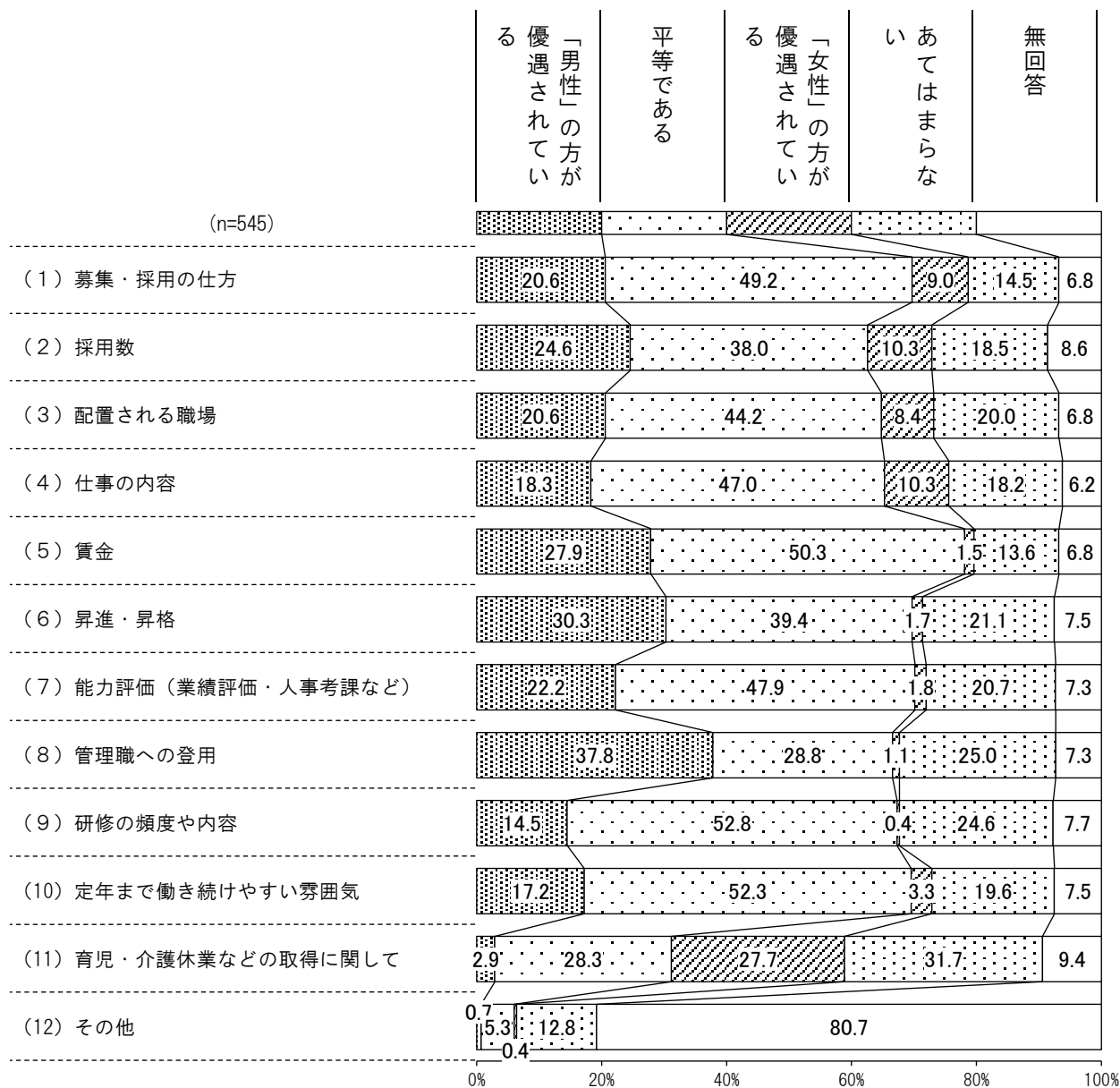
## ○職業（働き方）について

女性は「パートやアルバイト（学生アルバイトを除く）」が最も多い



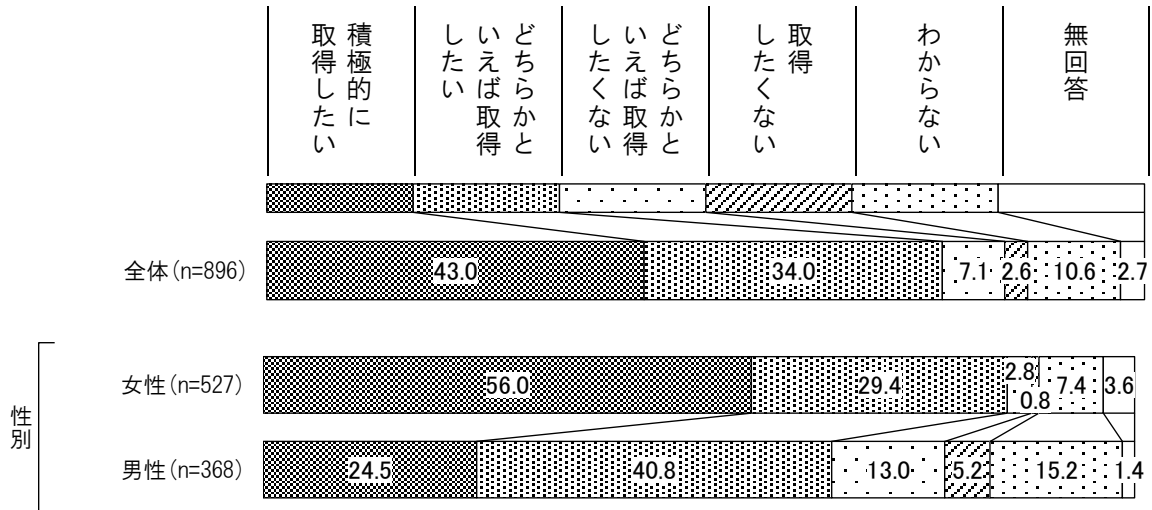
## 職場における男女平等意識について

○平等だと思う多い順は、「研修の頻度や内容」「定年まで働き続けやすい雰囲気」「賃金」



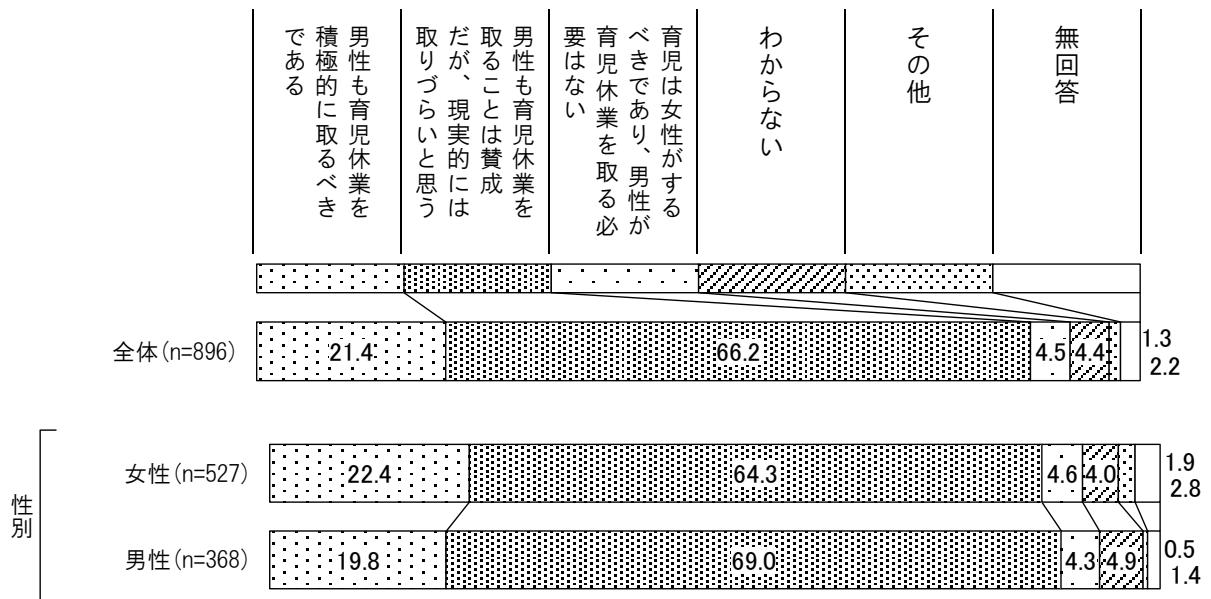
## 育児休業について

○今後の育児休業取得希望について  
『育児休業を取得したい』は約7割



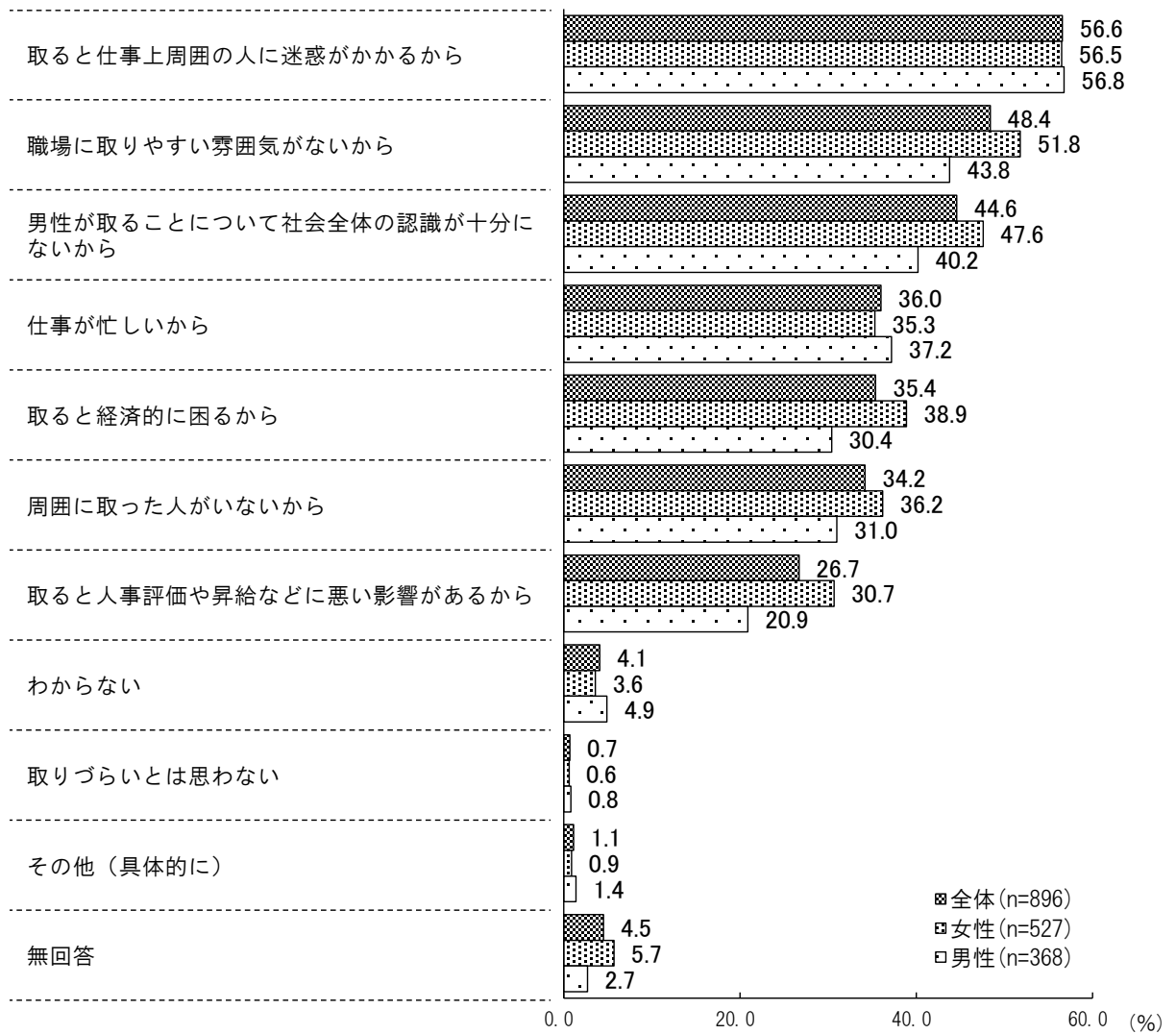
○男性の育児休業制度活用について

「男性も育児休業を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が最も多い



○男性が育児休業を取りづらい理由

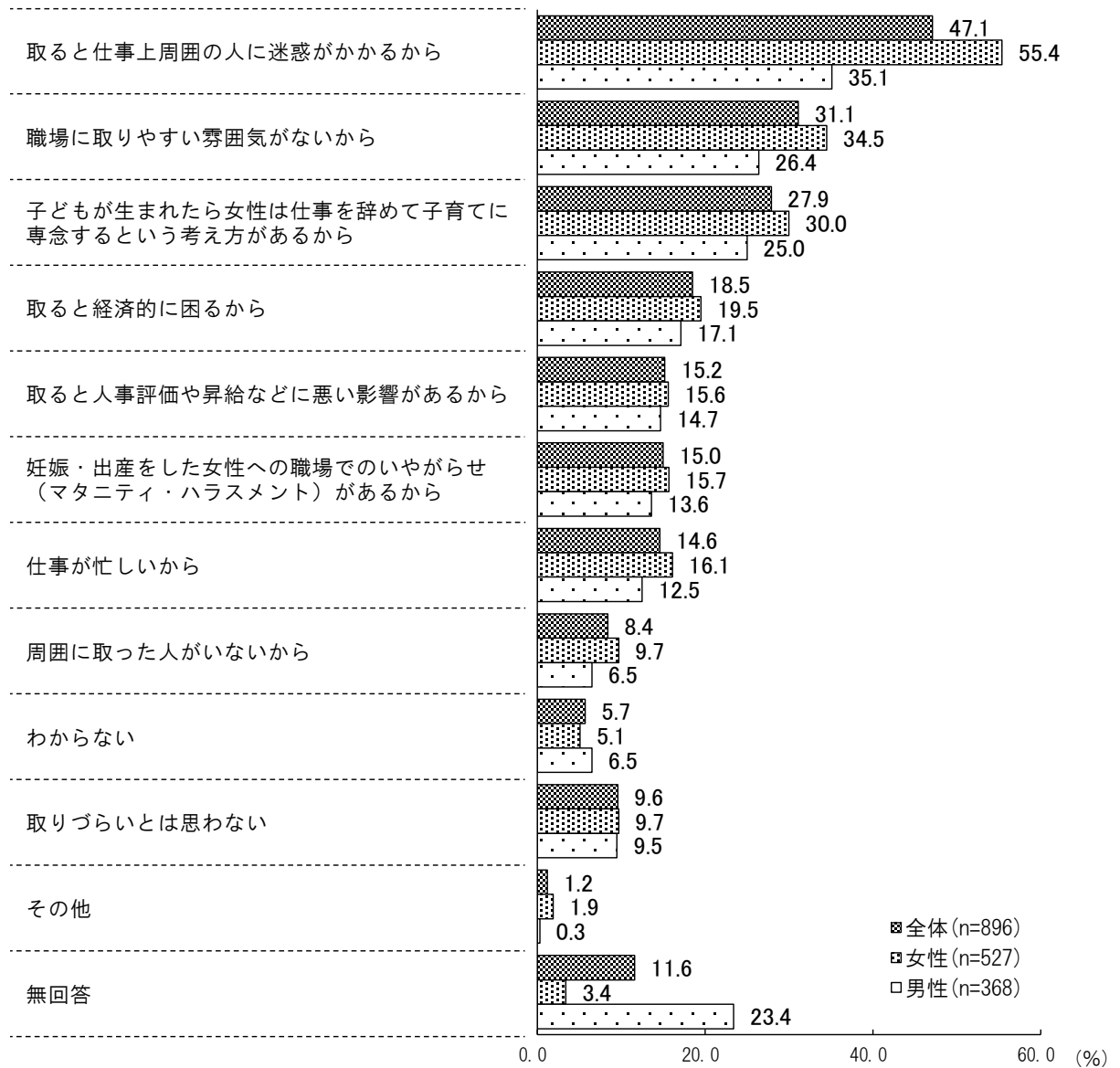
「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」が最も多い





## ○女性が育児休業を取りづらい理由

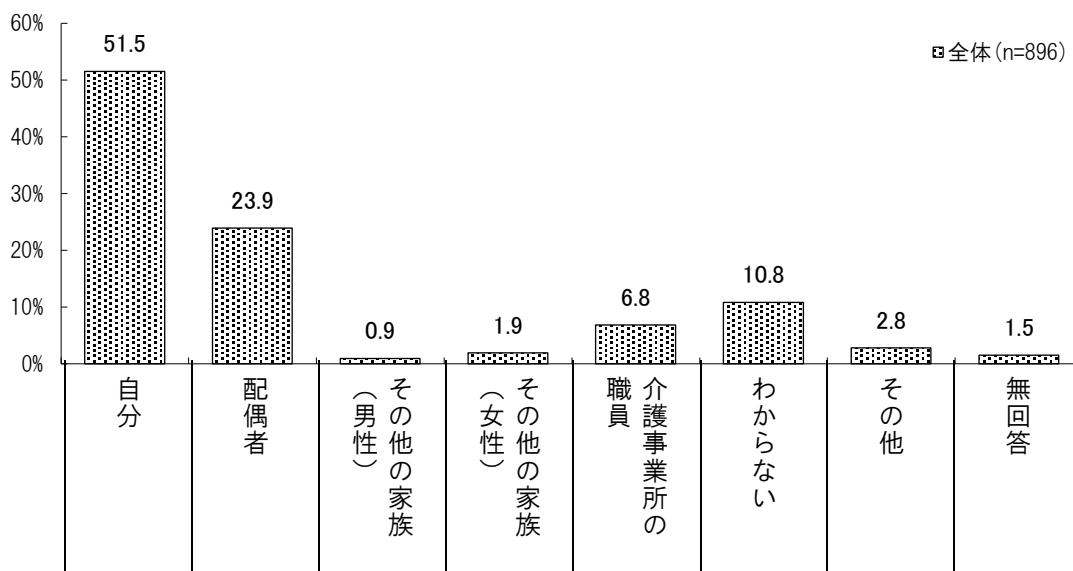
「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」が最も多い



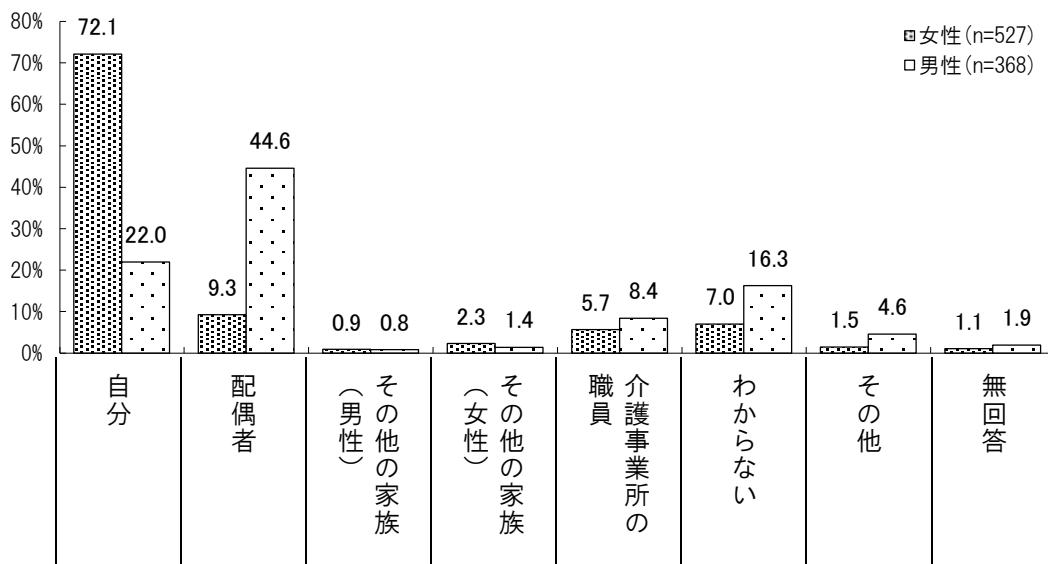
## 介護について

### ○介護をする人

在宅介護が必要になったときに介護をする人には、「自分」が最も多く、次いで「配偶者」

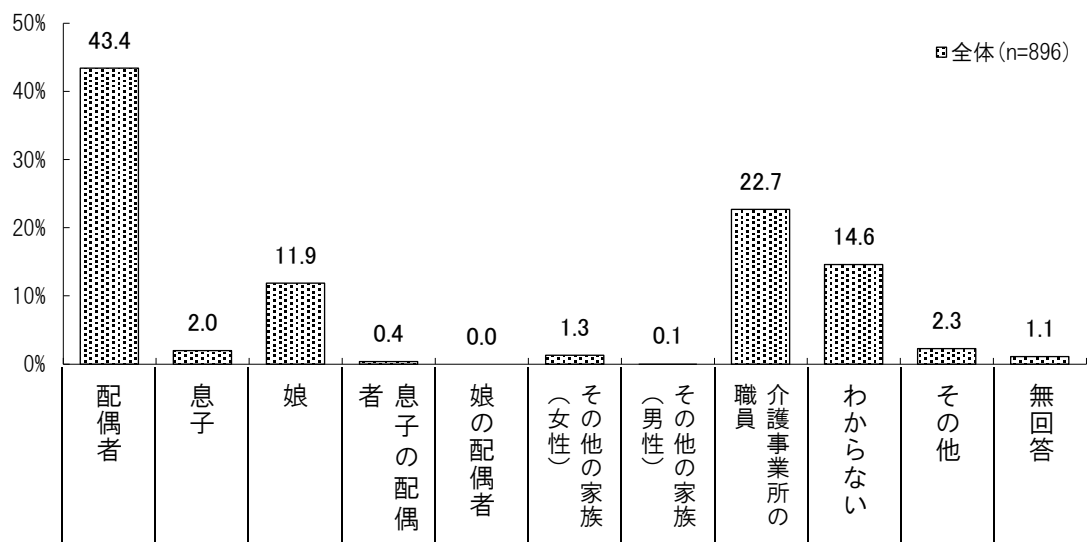


### ○女性では「自分」が約7割、男性では「配偶者」が約4割

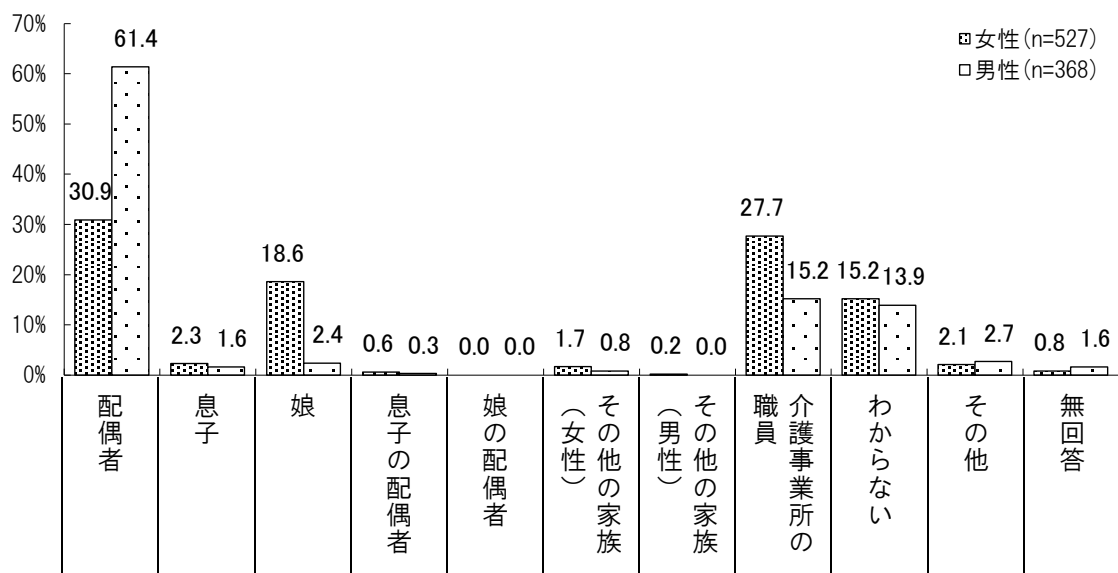


○介護される場合の希望について

介護してもらいたい相手は、「配偶者」が最も多い

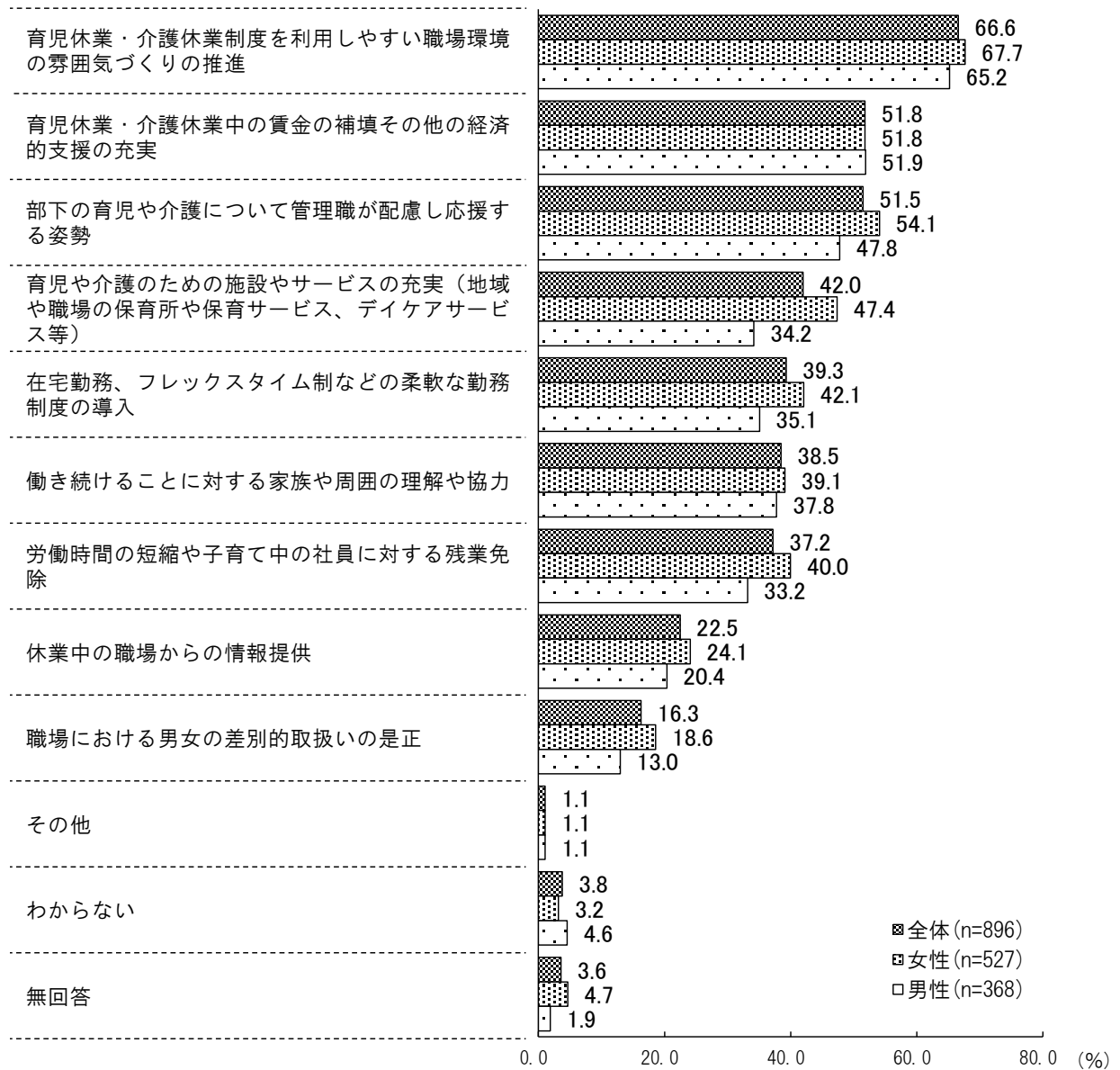


女性では「配偶者」が3割、「介護事業所の職員」「娘」の順  
男性では「配偶者」が6割で女性の2倍

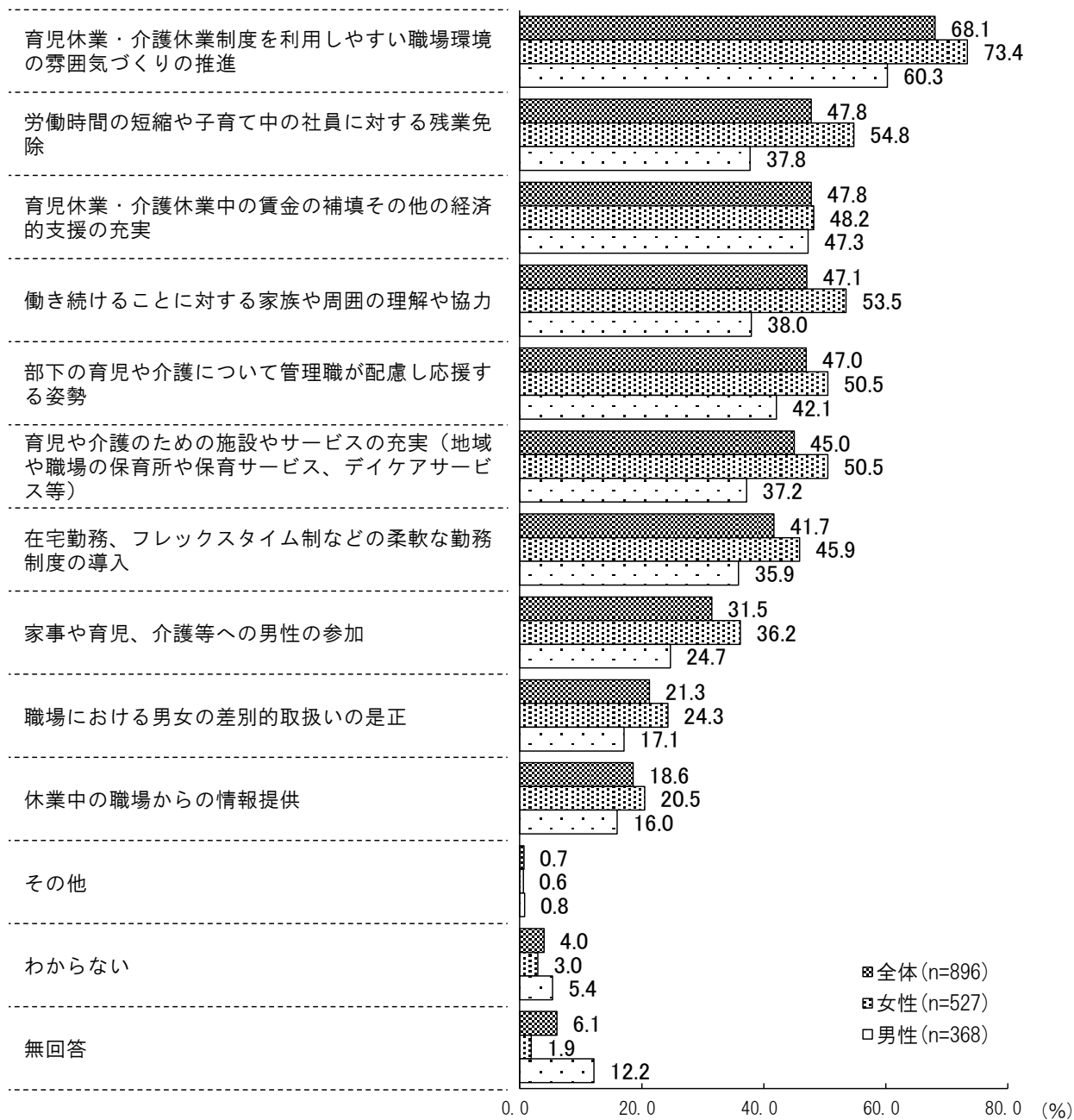


## 出産や子育て、介護などをしながら働き続けるために

○男性が出産や子育て、介護などをしながら働き続けるために必要なことについて「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の雰囲気づくりの推進」が最も多い



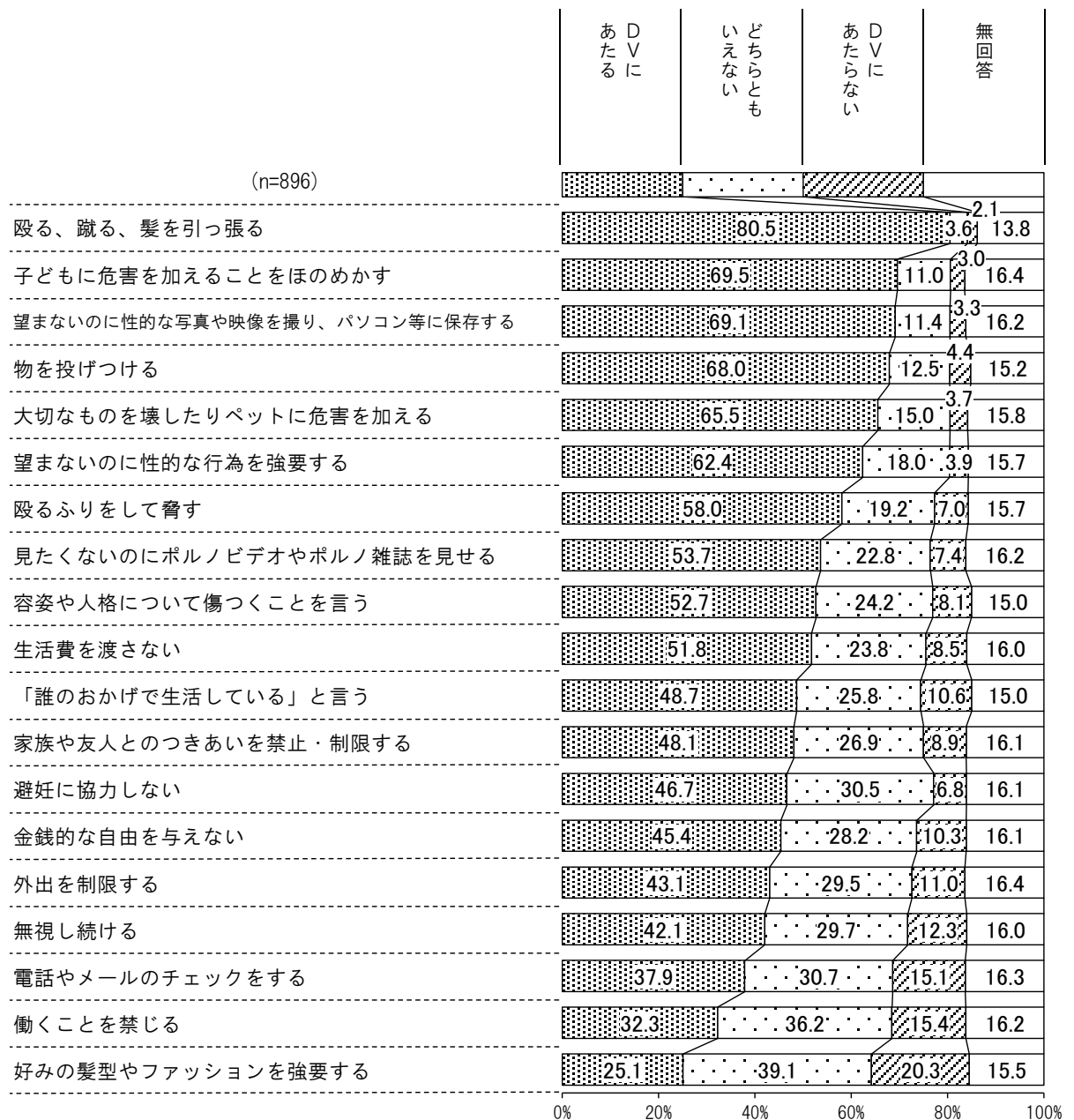
○女性が出産や子育て、介護などをしながら働き続けるために必要なことについて  
 「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の雰囲気づくりの推進」が最も多い



## 男女の人権について

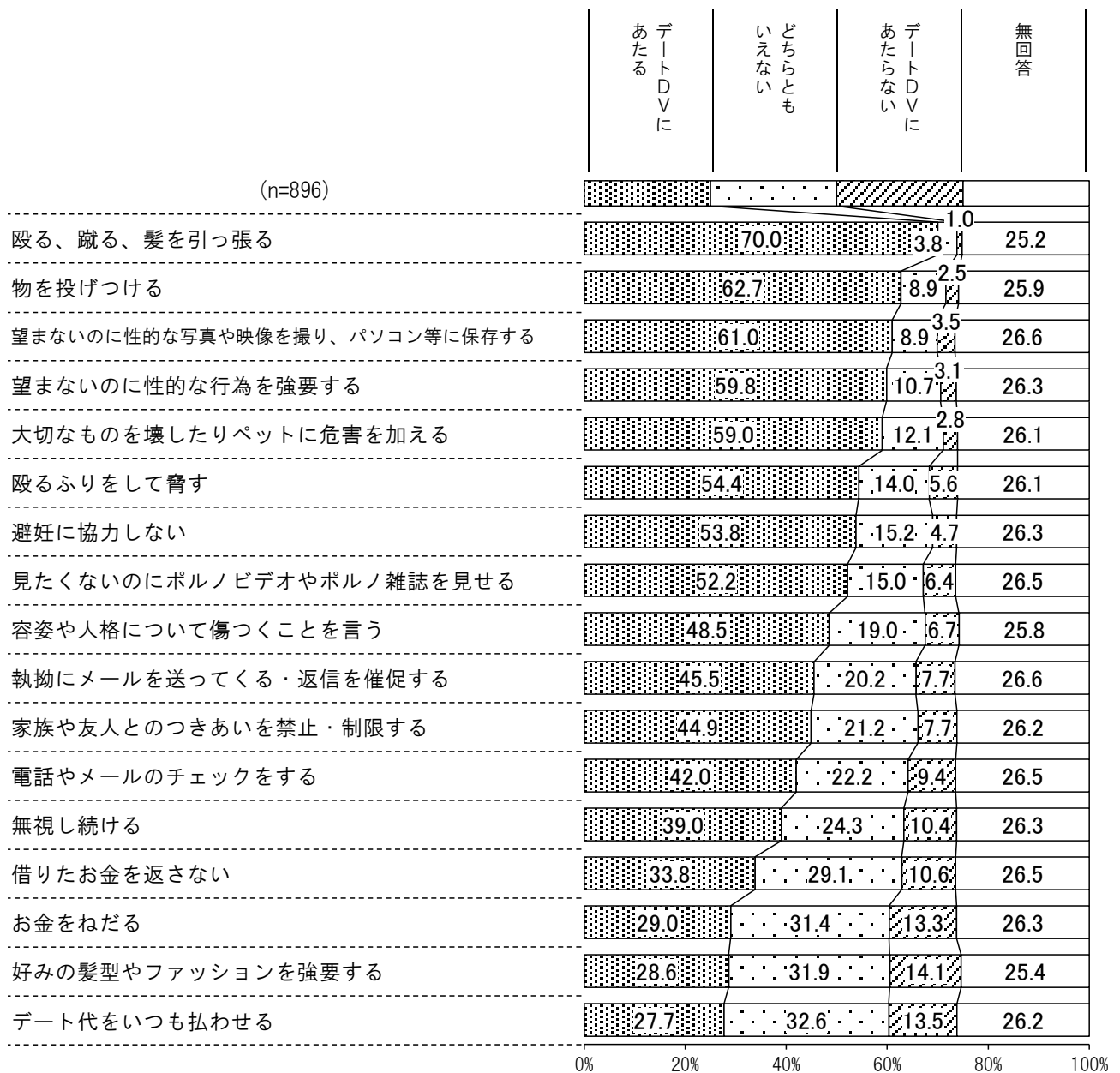
### ○配偶者やパートナーからの暴力について

DVにあたるのは、「殴る、蹴る、髪を引っ張る」「子どもに危害を加えることをほのめかす」「望まないのに性的な写真や映像を撮り、パソコン等に保存する」など



○恋人など交際相手からの暴力について

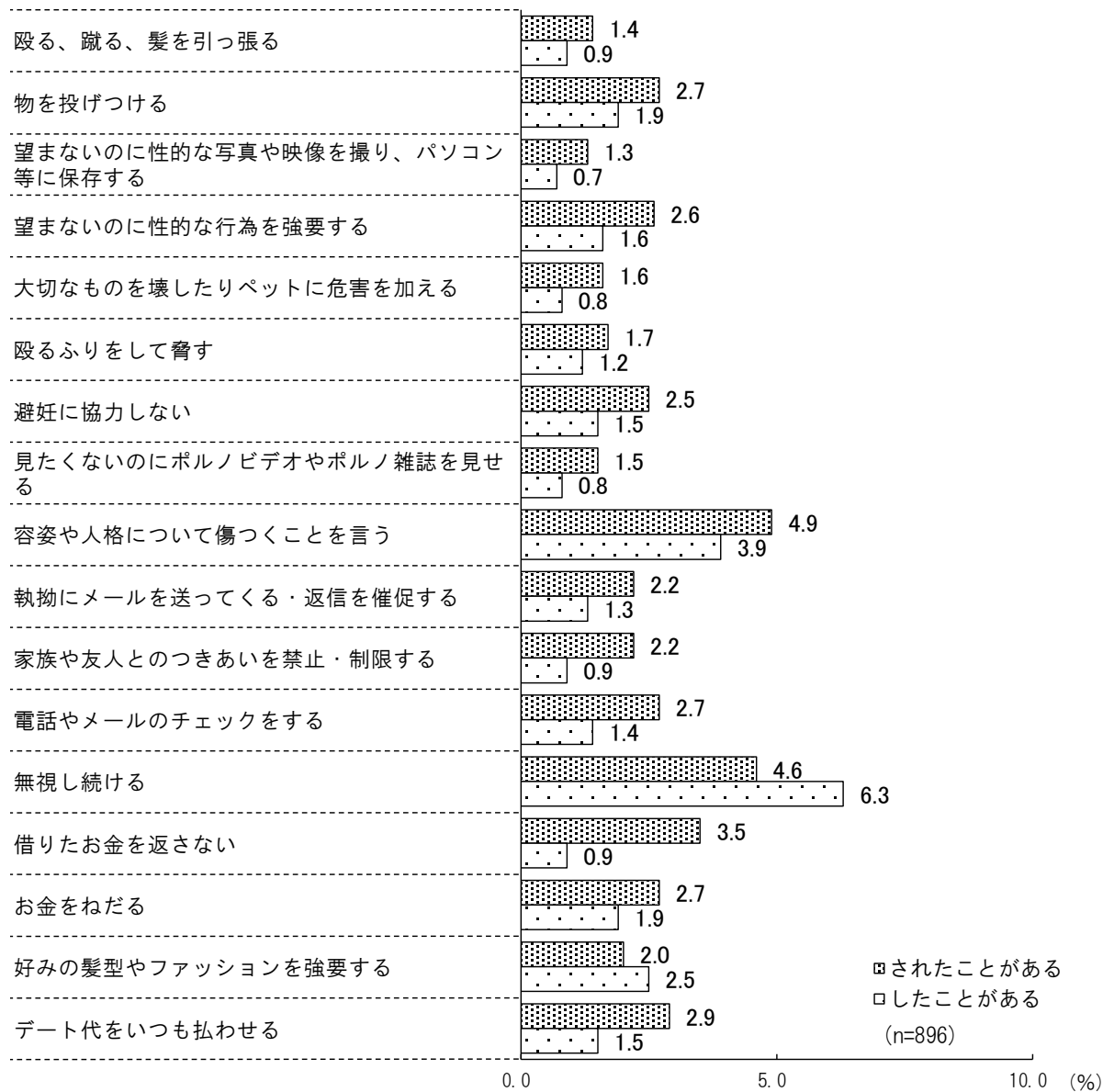
デートDVにあたるのは、「殴る、蹴る、髪を引っ張る」「物を投げつける」「望まないのに性的な写真や映像を撮り、パソコン等に保存する」など



## ○恋人など交際相手による暴力の経験

交際相手から暴力されたことがあるのは、「容姿や人格について傷つくことを言う」が最も多い

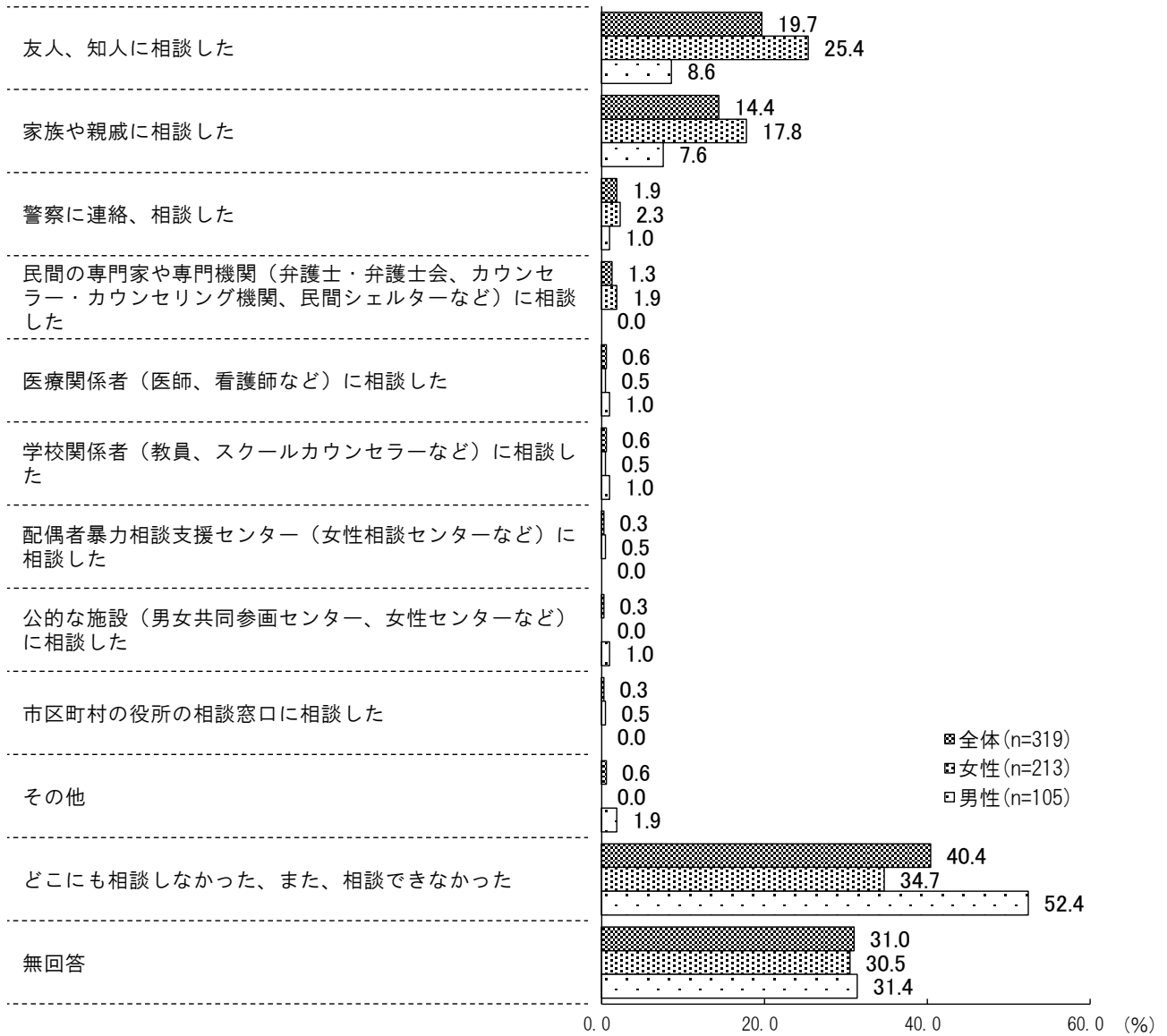
暴力したことがあるのは、「無視し続ける」が最も多い





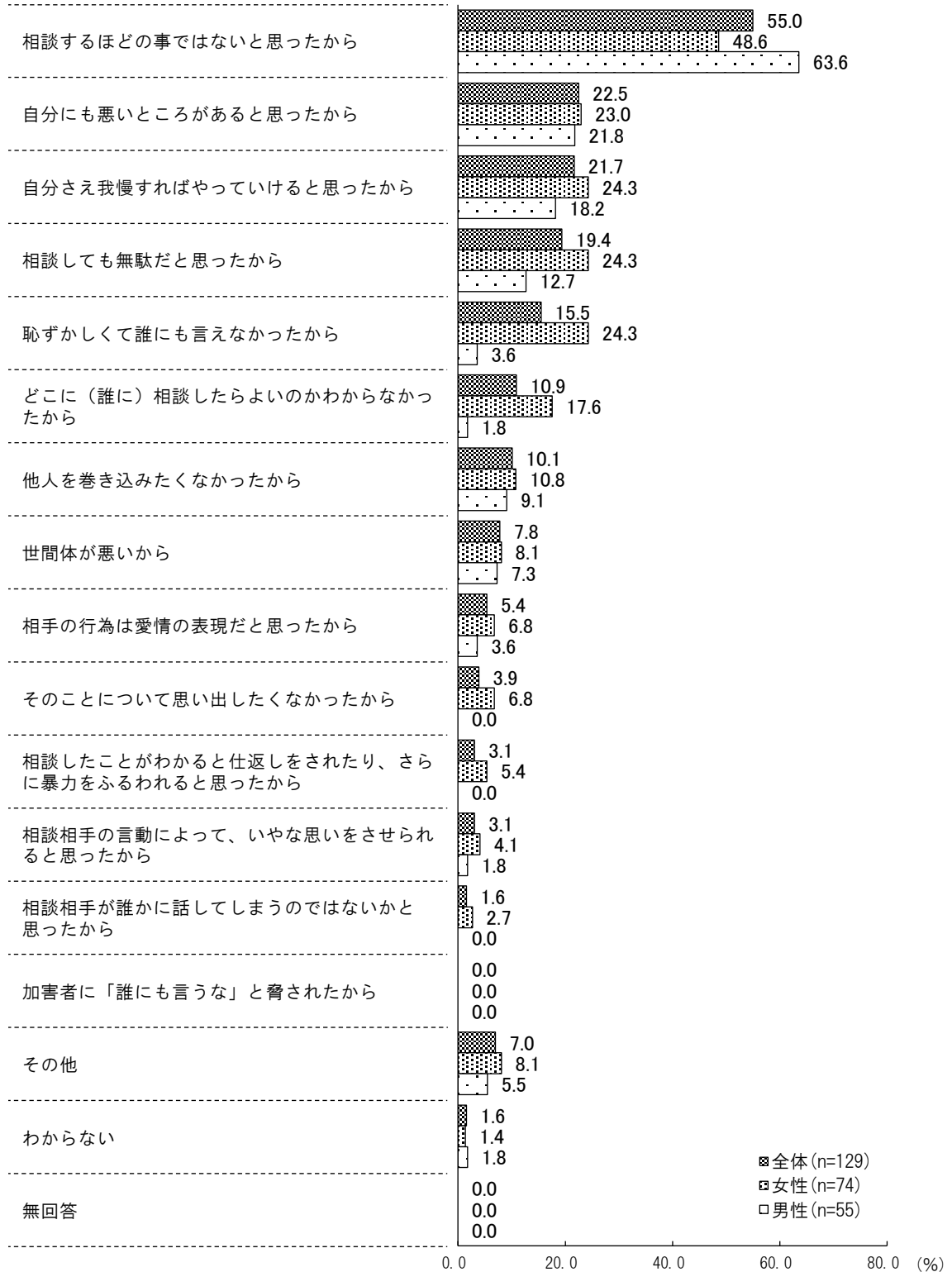
○打ち明けたり相談したりしたこと

「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」が4割で最も多い  
相談先は、「友人、知人に相談した」が約2割で、公的機関は少ない

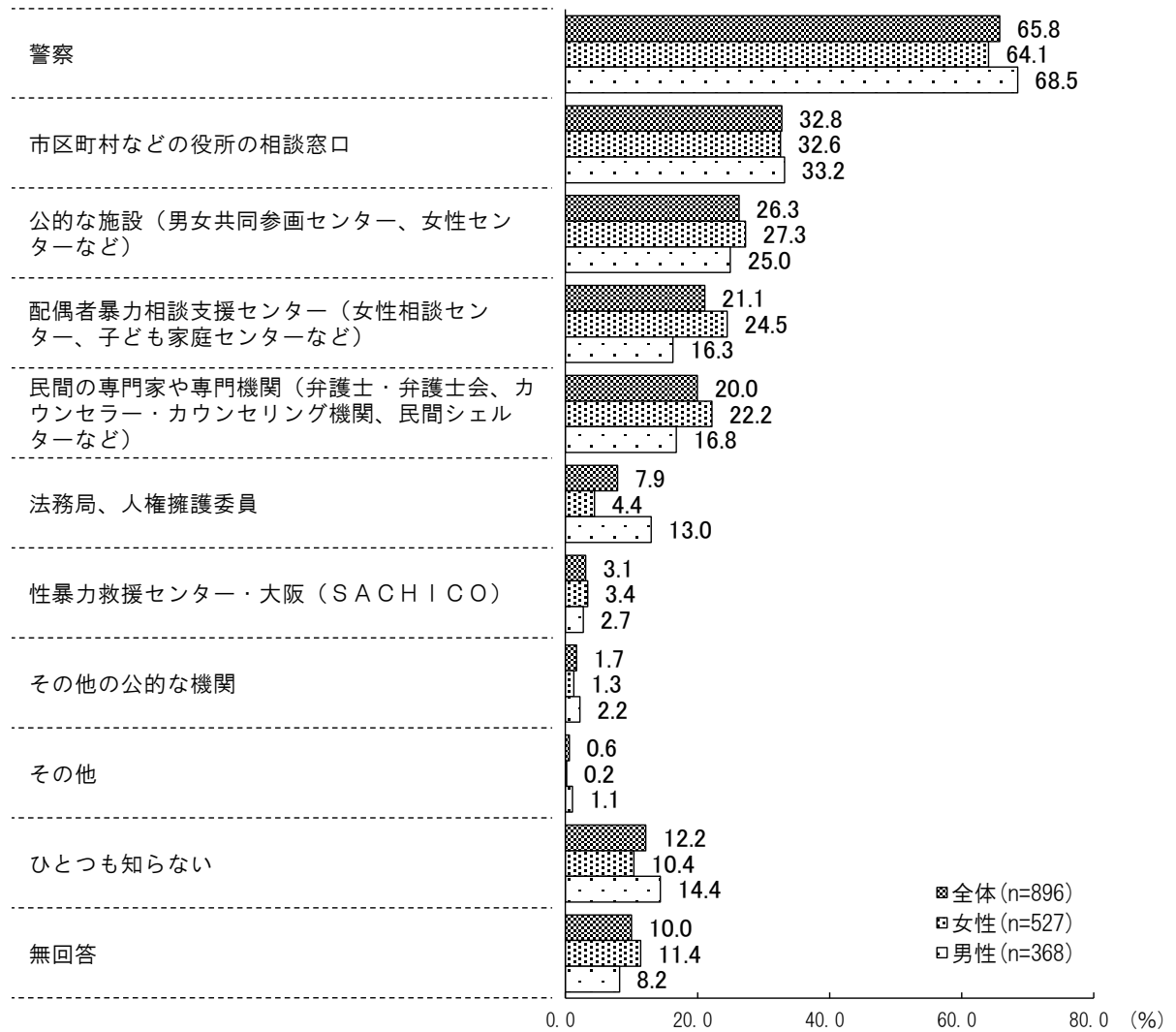


## ○どこにも相談しなかった理由

「相談するほどの事ではないと思ったから」が5割を超えている



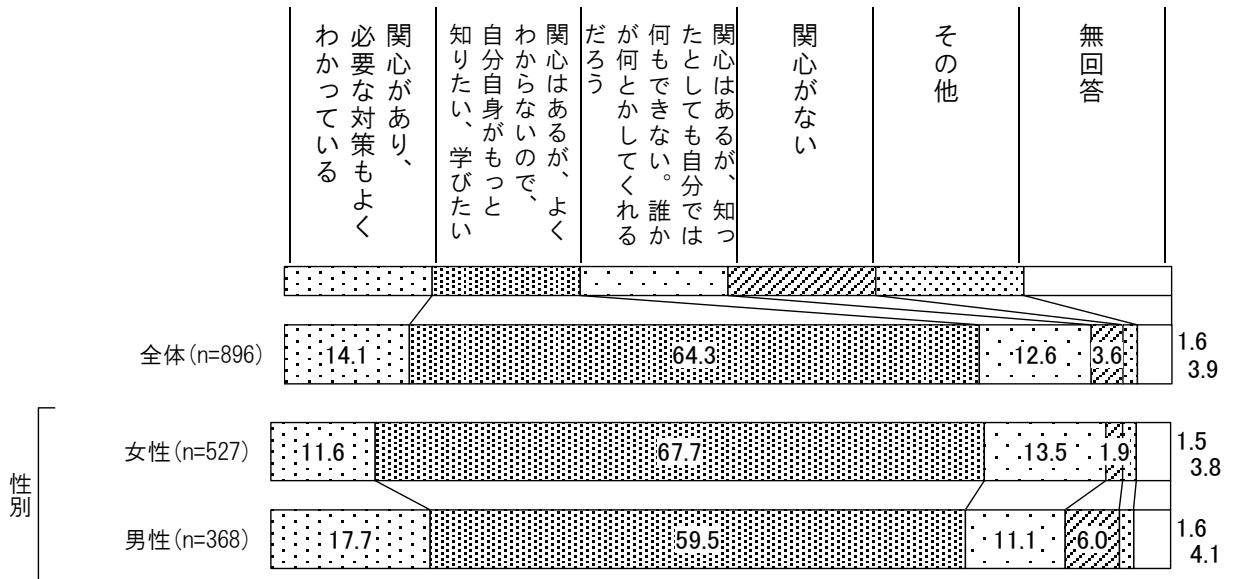
○配偶者からの暴力の相談窓口の認知について  
「警察」が6割を超えて最も多い



## 防災について

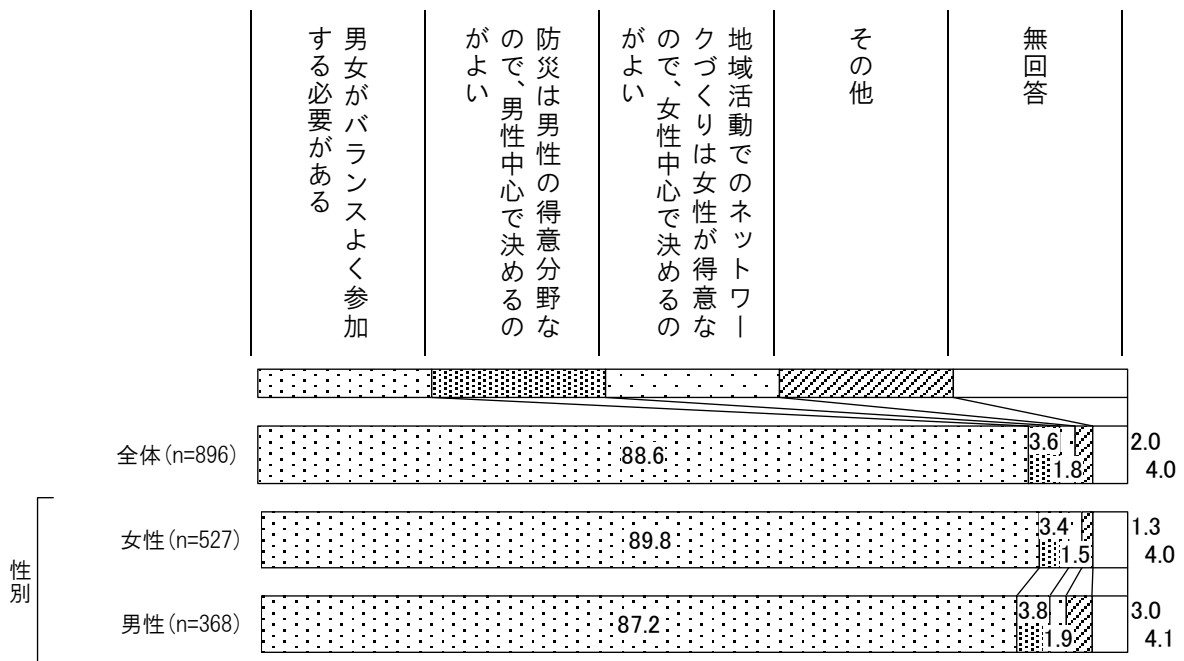
### ○防災への関心の有無

「関心はあるが、よくわからないので、自分自身をもっと知りたい、学びたい」が最も多い



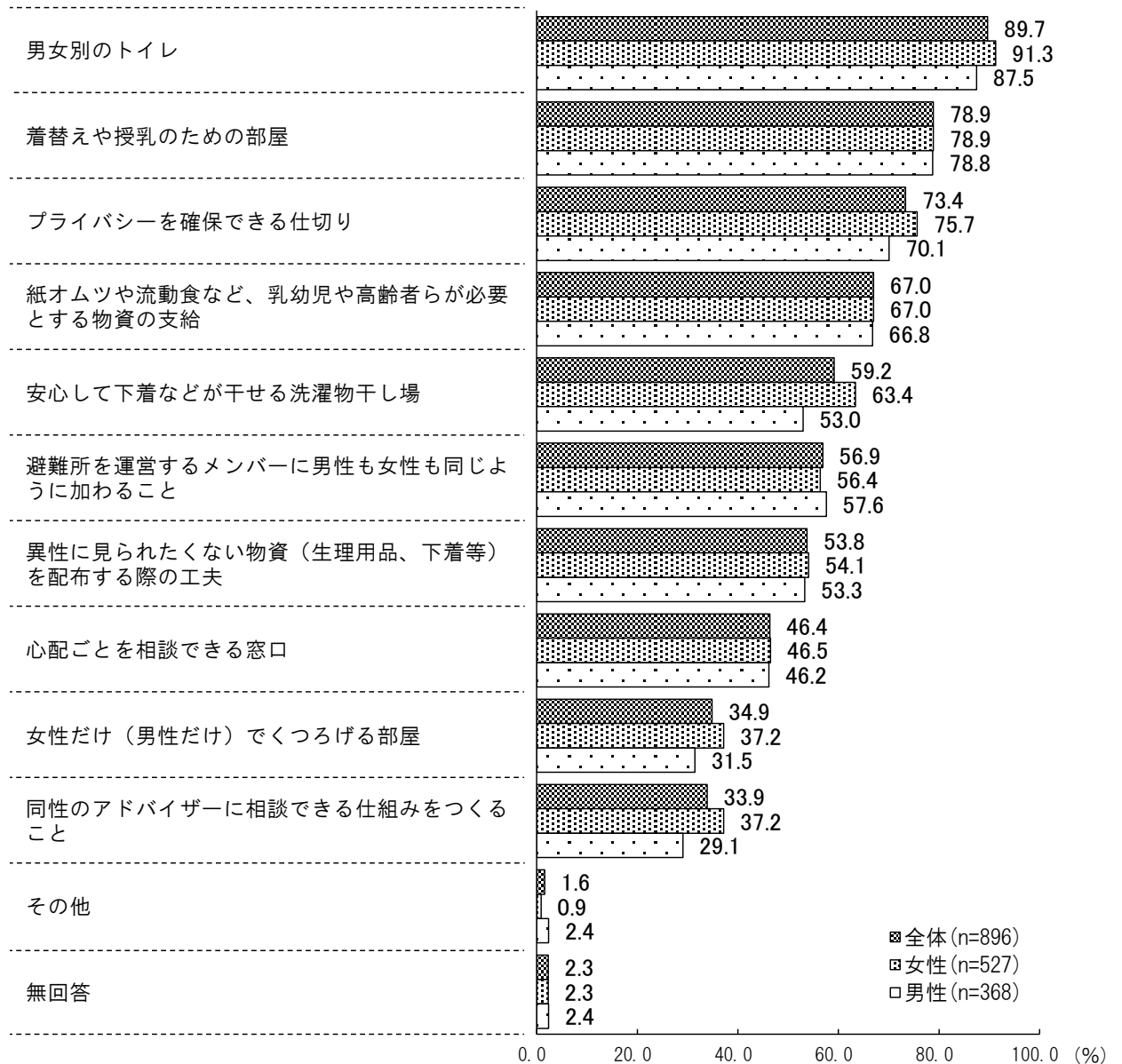
### ○防災計画策定や役割決定への参画

「男女がバランスよく参加する必要がある」が約9割



○避難所における性別に配慮した対応

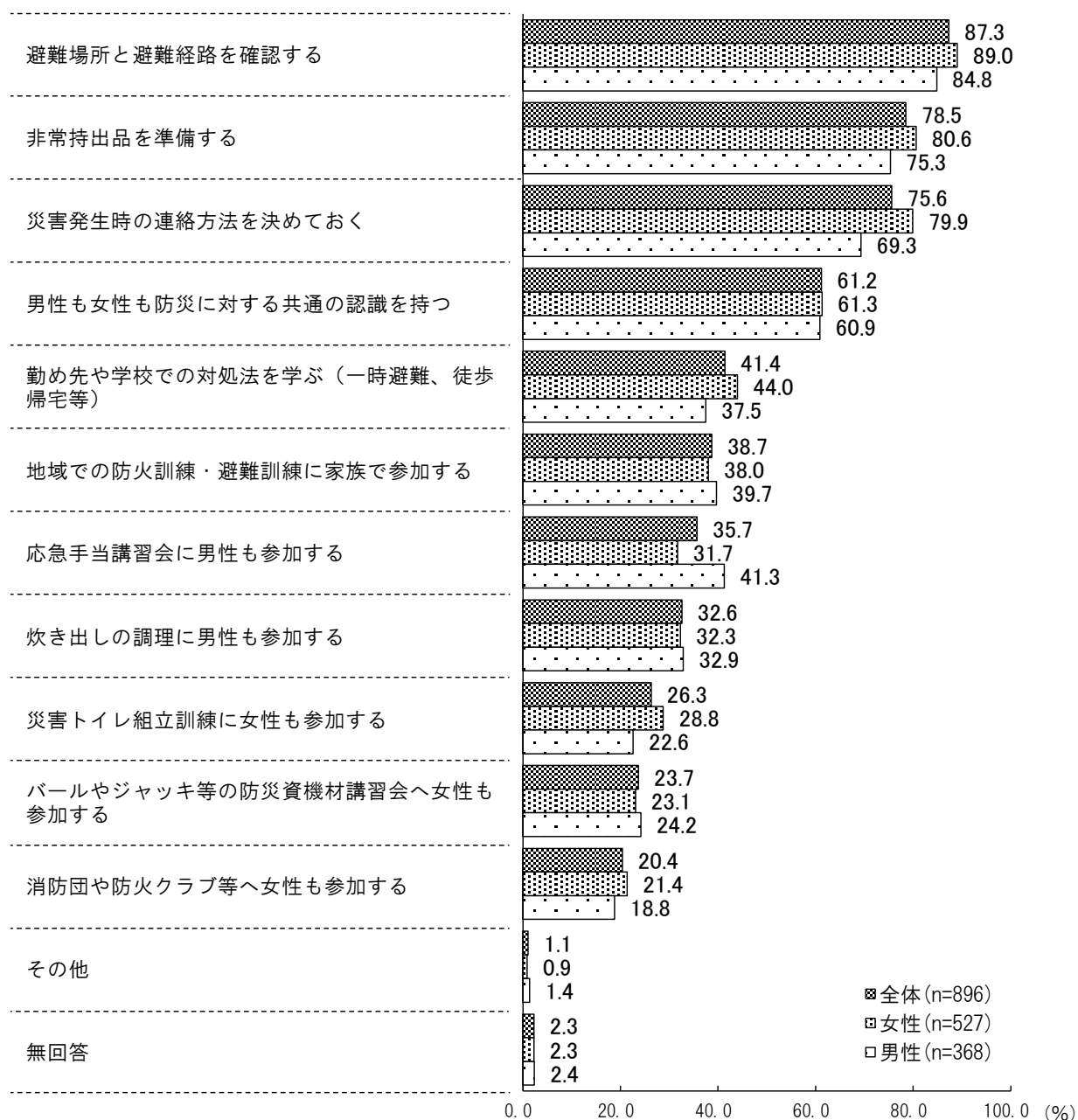
「男女別のトイレ」が最も多く、次いで「着替えや授乳のための部屋」「プライバシーを確保できる仕切り」の順



○災害に備えた日頃からの対策

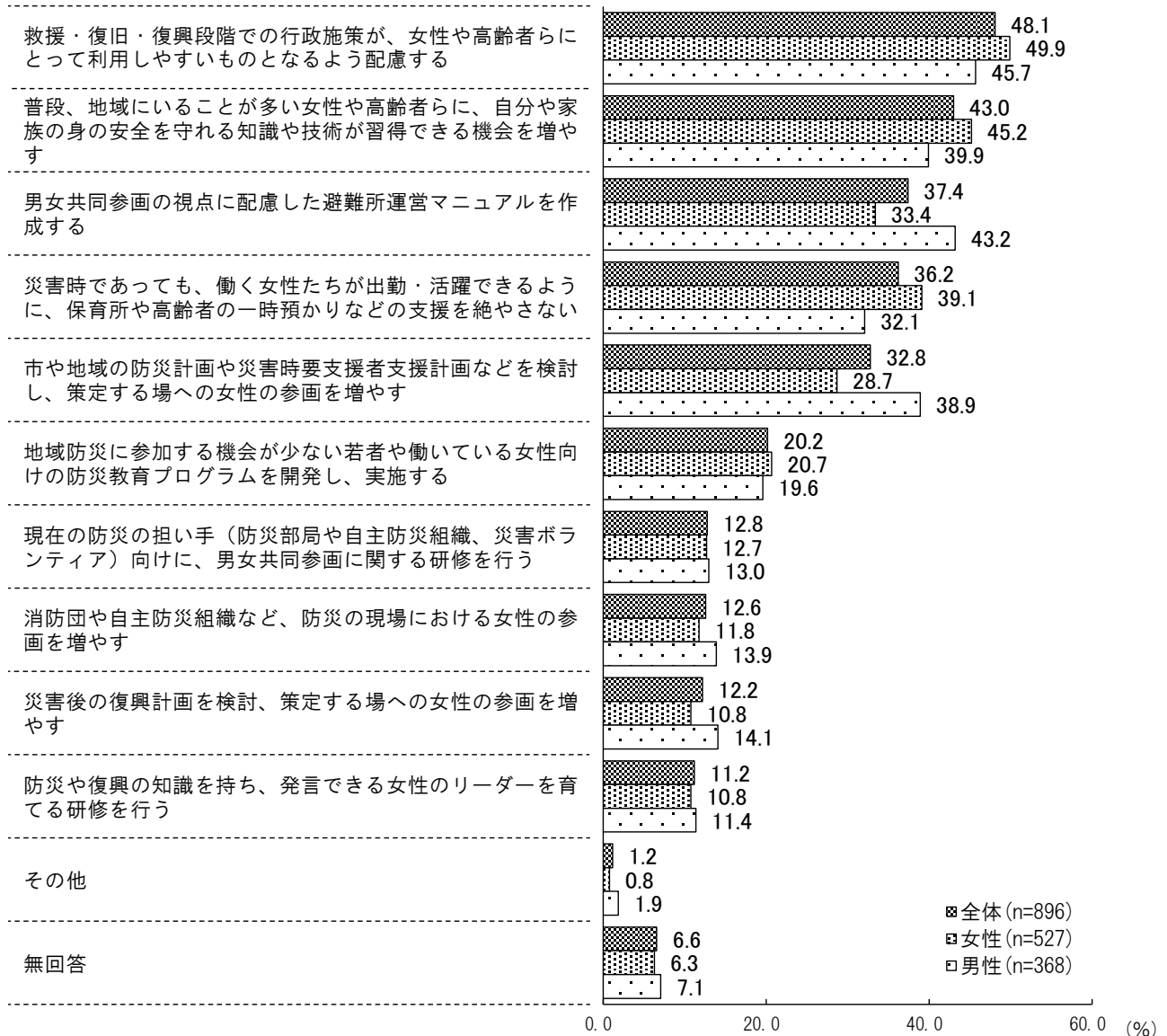
「避難場所と避難経路を確認する」が最も多い

次いで「非常持出品を準備する」「災害発生時の連絡方法を決めておく」「男性も女性も防災に対する共通の認識を持つ」の順



○男女共同参画の視点からみた重要な防災・災害復興対策の取組み

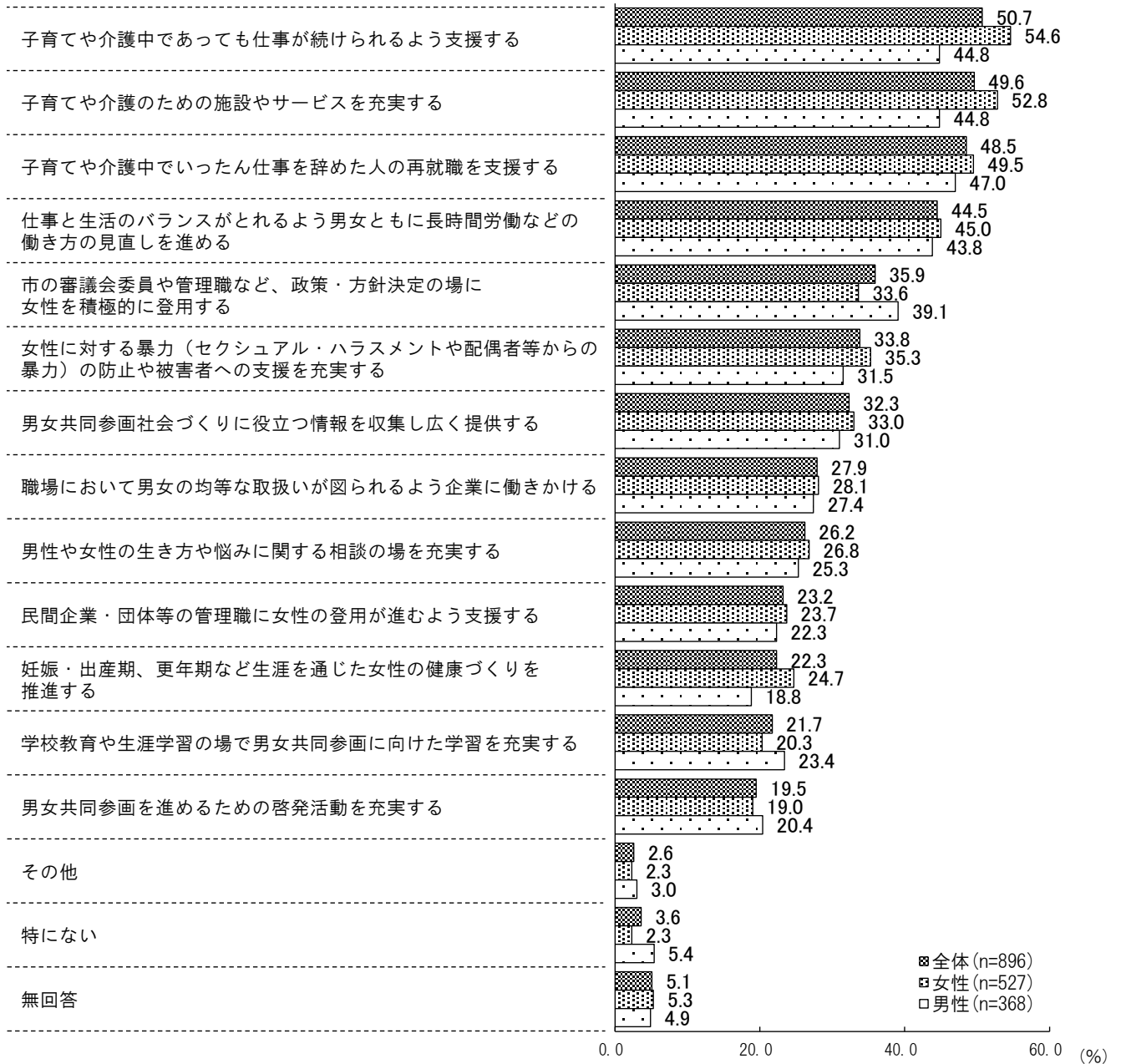
「救援・復旧・復興段階での行政施策が、女性や高齢者らにとって利用しやすいものとなるよう配慮する」が最も多い



## 男女共同参画社会について

### 〇男女共同参画社会の実現をめざして力を入れていくべきこと

「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最も多い





この資料は、「男女共同参画に関する市民意識調査 報告書」の主要な項目についてまとめたものです。

この調査にご協力いただいた市民の皆さまへ厚くお礼申し上げます。



摂津市市長公室 人権女性政策課  
〒566-8555 摂津市三島一丁目1番1号  
TEL 06-6383-1324  
FAX 06-6319-5970